

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
経営学部 国際ビジネス学科	教授	佐々木裕美
最終学歴	学位	専門分野
愛知淑徳大学大学院文学研究科博士後期課程 単位 取得満期退学	修士	米文学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

「学生が主役」をクレドとして、学生一人ひとりが4年間の大学生活を自分でプロデュースするための教育活動を行っている。

【目標】

各学生が、4年間の大学生活に目標を持って取り組めるように支援する。正解探しではなく、結果に至るまでのプロセスを大事にする。

【方針】

知識を与えることよりも、知識を身につけて「使える」ようになることを重視する。

【計画（方法）】

学生の学びが深まるノート術を使って、目的を持って学修に取り組める方法を提供していく。ノートを書くことで、学生が自ら課題を見つけ、考え、行動できるように支援する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、文学、アメリカの文化と社会
「事業構想プログラムⅠ」

（後期）

基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、文学、事業構想プログラムⅡ

○教育方法の実践

方眼ノートを活用したノート術を伝えて、学生の学びを支援した。

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

滞りなくすべての担当科目を実施した。ゼミと講義科目においては、学生が目的を持ってノートを書けるように支援した。留学生向けの「日本の文化」は、受講者がなかったため開講されなかった。すでに日本の語学学校で過ごしてきた学生にはフィールドワークは魅力がないのかもしれない。

II 研究活動

○研究課題

アメリカ文学研究・アメリカ地域研究・大学教育

○目標・計画

【目標】

フォークナー文学研究、およびノート術を使った学生指導を形にする。

【計画】

学会発表した文学研究をアップデートして論文として完成させる。ノート術を授業内で活用し、結果を検証する。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

（学術論文）

- ・佐々木裕美『『野生の棕櫚』におけるシャーロットの旅路の果て：アメリカン・デモクラシーの苦悩』 *Language & Literature (Japan)* 第33号 pp. 1-16 （2024年12月、愛知淑徳大学大学院英文学会）

（学会発表）

- ・佐々木裕美『『野生の棕櫚』における囚われの身と自由の身ーシャーロットに向けられる視線を通してー』 日本アメリカ文学会第35回中部支部大会 （2018年4月21日、愛知大学名古屋キャンパス）
- ・Tomomi Sasaki and Yuumi Sasaki, “ELTiS Workshop: Needs, Efforts and Outcome” JALT 43rd Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition ポスター発表（2017年11月19日、Tsukuba International Congress Center エポカルつくば）

（特許）

（その他）

- ・グアム教育フォーラムにて基調講演「グアム教育フォーラム：可能性と課題」（2024年9月18日、名古屋国際センター）
- ・日本アメリカ文学会中部支部2019年度12月ワークショップ『And Then They Came For Us』司会・コーディネーター（2019年12月7日、南山大学）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

アメリカ学会、日本アメリカ文学会・同中部支部、日本ウィリアム・フォークナー協会、愛知淑徳大学大学院英文学会

○自己評価

概ね達成できた。2018年に行ったウィリアム・フォークナーの文学に関する研究発表を大幅にアップデートして、研究論文を完成させた。ノート術を授業内で活用した結果の検証は道半ばである。

III 大学運営

○目標・計画

【目標】

経営学部執行部および教務委員会の構成員として職務を遂行する。

【計画】

経営学部執行部では経営学部長のもと、教務委員会では教務委員長のもと、職務を執行する。

○学内委員等

経営学部執行部、教務委員会

○自己評価

学部執行部および教務委員会の一員として、求められる役割を果たすことはできたように思う。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

AFS 日本協会のボランティアとして、異文化学習プログラムをファシリテートするとともに、高校生の留学支援および国際交流の推進に努める。

【計画】

留学生の異文化理解を深めるためのオリエンテーションに参加するとともに、高校生交換留学試験対策のためのワークショップを開催する。

○学会活動等

特になし

○地域連携・社会貢献等

公益財団法人 AFS 日本協会終身会員・異文化理解研修ボランティア、Satellite Club of Glendale Noon ロータリークラブ 5280 区会員、AHI アジア保健研修所終身会員

○自己評価

高校生交換留学試験対策のためのワークショップ（寄付講座）を2回開催するなど、概ね達成できた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

特になし

VI 総括

学生を主役に据えて、学びをサポートすることに徹した。1年半の休学を終えて大学に戻ってきた学生がいた一方で、退学を選ぶ学生もいたが、ノートを書くことの可能性が見えた一年でもあった。これからも健康に留意して、学生を支援していきたい。

以 上